

週 報

1987年11月15日 降臨前第6主日

巻 8 33号

1987年度教会主題

「世の光、イエスに従う」

わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみの
うちを歩くことがなく、命の光をもつてであろう。

ヨハネによる福音書8章12節

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会 堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目 8-29

☎ 045-833-5323

振替 横浜 9-13994

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目 6-3-304

☎ 045-833-6616

牧師 秋 吉 隆 雄

—牧師室から—

10日(火)私の赴任以来、婦人会の聖書研究は、旧約聖書を学ぼうと創世記から読み始めた。退屈なところもあったが、今、サムエル記下のダビデとバテシバの事件まで読み進んだ。

ダビデはエルサレムに都を建て国内はもとより近隣諸国をも支配する強大な王となった。そのダビデが罪に落ちた。部下ウリヤの妻バテシバの漏浴する姿に、魅せられ王宮に引き入れる。バテシバは妊娠し、ダビデは困惑する。しかし、罪が罪を生み、悲劇は増幅される。ウリヤを戦場の最前線に送り無駄死にさせ、バテシバを妻にする。この時、神は王宮預言者ナタンを遣わし、巧みな譬えと鋭い言葉でダビデの罪を糾弾する。ダビデは一言「わたしは主に罪をおかしました」と懺悔している。詩篇51篇には、この時のダビデの心境を「わたしの不義をことごとく洗い去り、わたしの罪からわたしを清めてください。神よ、あ

なたは砕けた悔いた心を、かろしめられません」と伝えている。ナタンはダビデの砕かれた信仰を見て「主もまたあなたの罪を除かれました」と赦しを宣言する。

聖書は男性の側から書かれているので、この間のバテシバの思いが良く分からない。権力者ダビデに翻弄された悲劇の女性といえるだろう。

私は、イスラエル人が理想とする王でありながら、ダビデの罪を包み隠さずに記す聖書の精神に感嘆する。罪の赦しを知る、途方もなく深い文化を感じる。バテシバから生れた子供は、病死する。ダビデは病気の子供の癒しを求めて7日間、地に伏して断食祈禱をするが、子供の死を知ってからは、立ち上がり食事をとる。自害することを恐れた部下の心配をよそに過去の罪から解放されるダビデの転換は見事である。聖書は、罪を赦して下さる神は、このように将来に向かって生かしてくださると告げている。